

文書館の逸品「田村梶子による手習本」

🏯 展示期間 令和7年5月1日(木)～6月29日(日) 🏯

〔吉田元次郎、吉田歌子書手習本一括〕

年代不詳

本資料は江戸時代の手習いの手本です。江戸時代の中期以降、寺子屋(手習塾、手習所ともいう)は庶民の教育機関として各地にできました。寺子屋の教育内容は、「読み・書き」の2科目を教えたところが最も多く、次いで、「算術(そろばん)」を加えた3科目を教えたところもありました。しかし、中心は習字で、手習うことを通して文字や文章の意味を理解させようしました。ここから、法令・教訓・消息(手紙文)・地理・歴史・産業・理数などに関する様々の手習手本(往来物^{おうらいもの}という)が作られ、用いられました。

この手習手本は、下久方村(現桐生市)の寺子屋松^{しもひさかた}声^{てらこやしょうせいどう}堂の女師匠である田村梶子が^{ふでこ}筆子(弟子)の吉田元次郎のために書いた手習い本です。上の資料は、最初に習う「いろは」で平仮名を学びます。左下の資料は「^{ちかみちこだから}近道子宝」で方位地形などの自然現象や衣食住などの語句を学びます。右下の資料は「^{くにづくし}国尽」で当時の国名を学ぶためのもので、畿内5ヶ国、東海道15ヶ国及び東山道8ヶ国が書かれています。

東京都千代田区吉田允俊家文書(橘守部関係資料)
(PF980189-90/406)



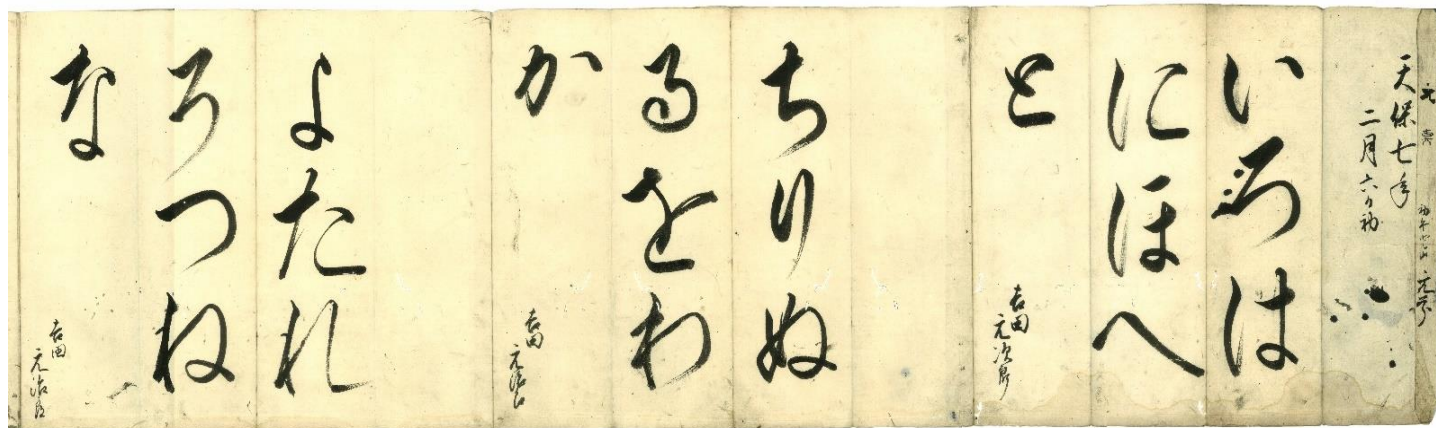
寺子屋教育に尽力した田村梶子

田村梶子は、天明5(1785)年生まれ、下久方村で寺子屋松声堂を主宰していました。桐生地方で女子教育の隆盛をうかがわせるものとして、女性師匠の活躍がありましたが、梶子もその一人でした。梶子は幕府の大奥に出仕して祐筆をつとめたといわれ、能筆家で礼儀作法に詳しく、和歌もたしなみ橘守部の門人でもありました。

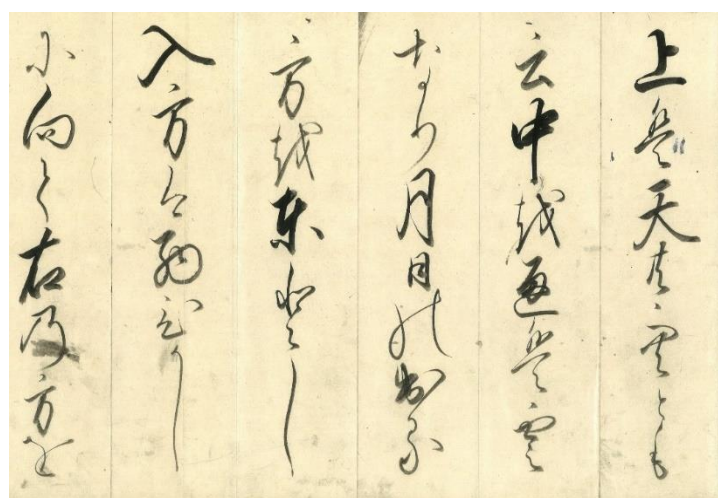
梶子の松声堂は文政12(1829)年頃から文久元(1861)年まで開業していました。多い時で弟子は男子30人、女子110人いたようです。入学は7歳頃からで修業年限は普通7年間程度、授業は早朝から8時間、休日は毎月1日、15日のほか年始、節句、盆、年末でした。教科は読み、書き、作法、和歌で、学習は通年で個別指導、男女の席を分け、清書は6日目ごとに行い、上・中・下の評点を付けて返していました。文久2年没。

参考文献：桐生教育史

写真：桐生市立図書館所蔵『田村梶子肖像画』



「いろは」



「近道子宝」



「国尽」

上は天共(とも)空とも
 云、中を通は雲
 なり、月日の出る
 方を東とし、
 入方は西、ひかし
 に向て右乃(の)方を

五畿内五ヶ国
 山城大和河内
 和泉摂津東
 海道十五ヶ国
 伊賀伊勢志
 摩尾張三河

群馬県立文書館

〒371-0801 前橋市文京町3丁目27-26

TEL 027(221)2346 FAX 027(221)1628

URL <https://www.pref.gunma.jp/site/monjyokan/>

mail monjyo@pref.gunma.lg.jp